

## 何でも語るコーナー

## 第6回:音楽について

## 音楽について

05/4/9

大学に入って、いろいろな”学問”があるんだなあと思ってますが、音楽もその一つ。

高校の選択授業で音楽を選んだのですが、基礎音楽の講義はとってもありがたかった。が、歌「ばかり」はつらかった。僕の場合、1時間目が歌、2時間目が講義、これを、ゴゴイチの授業でやるわけです。昼食を食べたばかりの、気分はホンワカな中で、歌はつらい…。特に、同じ歌をやり続けるのがつらい。

別に、歌うのが嫌いなわけではない。人前で歌うのも緊張ではなく、遠慮だ。でもその逆に、元気な地声で名曲を合唱するのはどうかと。正直、原曲を知っていると違和感を覚えてしまいます。特に、ソロ曲とかね。学問ならねえ、その楽曲の雰囲気も考えてほしい。

たとえば、イタリアの民謡とかは、巻き舌で歌いたいんだよね。

ですが、合唱は悪くない。むしろ、みんなで歌うとイ気分です♪結局は、歌い始めると張り切っちゃう。良い声が出るといい気分になりますよ。

でもでも、一回くらいは楽器も演奏したかった。太鼓とか叩いてみたかった。というより、ドラムかな。学校の楽器は少ない。音楽室の横はたいてい、吹奏楽部とか、オーケストラ部とかが楽器倉庫にしている。部費とか予算で買ったりするものも多いわけで、もし授業で利用して壊したら大変なんだと言う、大人の事情があるのも知ってるんですがねえ。

でも、太鼓とか1つは用意しているはずでしょう？太鼓が無いにしろ、リコーダーはあるはず！個人で持っているはず！リコーダーは、学校音楽の華なんですから！ぜひやりましょうよ、わが母校！

講義に関して、作曲などもあった。でも、2年からやるらしい。僕の行っていた学科には、2年次に音楽選択がないので、それはできず。毎回毎回、授業で何をやるのかと期待しつつも、毎回毎回歌ばかり。別に、音程はずすことはないんですけどねえ。正直飽きてしまう。

やっぱり、器楽やってたから、音程は耳の奥にがっちり埋まってるんです。暇なときは、耳の奥にしまった曲を聴いてます♪特に、クラシックとか。移動中とかは便利。なにも機械とかいらんし。「ガイアの夜明け」の「夜空の花」とかが最近のお気に入り。近頃は、ふと耳にした音程を解析するのがちょっとした条件反射になっている。音程はかなりわかる。散々チューニングしてきたんだから。

でも、難しい音ってあるんです。主音がわかれば、曲の雰囲気で即興で変調することはできる。しかし、難しい音、あるんです。楽団に入って改めて思い出したが、不協和音程は音がとりにくい。

たとえば、僕の場合、突然耳にした曲の場合、Aisとか、Hとかが、曲の音程によっては、混乱を起こします。これは最近も昔も。ちょっと苦手。というか、それが普通なのかな。突然でも、その音程は出せるけど、長いこと考えないと、音名と曲とがヒットしないこともあるので、不便です。

コレクションのクラシックなどのCD100枚を聴いて、勘を育てなくてはとあせっています。

ちなみに、お勧めの曲は…

- 1: 亡き王女のためのパヴァーヌ
- 2: ユモレスク
- 3: 愛のあいさつ
- 4: 愛の夢第3番
- 5: 亜麻色の髪の乙女
- 6: ハンガリー狂詩曲第2番
- 7: 月の光
- 8: 調子のよいかじや
- 9: 野ばらに寄す
- 10: 月光ソナタ第2楽章
- 11: ヘ調のメロディ
- 12: ファランドール
- 13: 禁じられた遊び
- 14: ゴセックのガヴォット

そして…ベートーベン第9。ちなみに、手元の本には、この曲名の原名(訳?)が書いてあるんですが、なにやらごたごた書いてあるので、雑学として身につけておくことにした。

歌入りの曲も結構あったりする。コナン(ディテクティブ)とか、いい曲たくさんある。お勧め曲たくさん。ぜひ聴きましょうよ！ジブリも良いかと。

また、日本の民謡とかも名曲ぞろいだ。100円ショップでシリーズが出たら買い足していくという生活が、僕の受験生活を少しは支えてくれた。特に、ケーナに興味を持ったのは大きい。不思議な混ざり具合の楽器だ。

竹笛を自作してみたが、結構、フルートの頭部管みたいな吹き方ができる。いい音色だったので、お気に入り♪100円ショップで買ってきた竹ざおを利用。もうすぐ記事にするかも。といって、また遅れるんだろうなあ～。物理もかかわってくるし。僕の知識では、開口端補正とかがまだまだ弱い。まずは、あれを学ばないと。

懐かしさで言えば、やはり、リコーダー。ソプラノは強く吹くのにコツがいるのと、高すぎる音はあまり好きでないので、アルトを特に吹きたい。すぐそばにしまっているし。でも、リコーダーは合奏すると、とても気持ちの良い音色なので、そういうサークルが某HT大学にあったように、僕の行く大学にもあってほしいんですが、無い模様。HTの大学祭で敷地内の路上でピーヒャカ吹いていたのが面白く、早く受験を投げ出したくもなったのだが、そこはとりあえず抑えた。よかったよかった！12月だし。

ほかにも、吹いてみたい楽器は山ほどある。トランペットが第1位。吹奏楽部の楽器選びで、唯一、一切音が鳴らなかった楽器なので、まづはこれを鳴らしてみたい。何より、遠くに向かって吹くスタイルがカッコいい！

最近のお気に入りには、ケーナに加え、オーボエ。樵とか雑木林とかのイメージがあって、情緒豊かだ。あとは、ホルンかな。僕の中では結構マイナーな部類に入る。でうううみたいな音で、モンゴルの草原みたいなイメージです。ひたすら広大な緑の絨毯、雲一つあるお天気。癒されるねえ。

弦楽器はほぼ諦め状態。擦るというスタイルは、全く体験していないのできつと、最後のほうかなあ。実際、ホームセンターで鉄線とピアノ線を買ってきて、ギターまがいのものを作ってみたが、なにせ耐荷重量なんて書いてある品物だ。そんなに伸びるはずも無い。弦の振動数は、弦の長さに反比例するので、弦が長いほど、伸びの限界を大きくできる。20cmで作ったうえに、電子回路用の極細鉄線を使い、螺子はPC用のを使ったので、かな

りずさんだった。テグスや銅線やらを使ってみたが、ピアノ線にかなう材質は無かった。

弦楽器のもう一つの難しさは、なんであんなにうまく音を合わせて弾けるのかな、という、チューニングの、もっと言えば、1音ずつチューニングするような特性だ。実際は、僕も友人の使ってた楽器を少し使わせてもらったが、毎回音が変わる。弓のひき方でも変わる。難しい。

でも、これをいうならトロンボーンもそうなわけだし、当たり前のようにふけるのはいつだろうか…。

あとはドラム。即興でリズムを取りたいですねえ。たかたかたたかた、とか、たんたかたかたかたたたたたたたた一、とか、乗ってくるとすごく楽しい楽器だと思う。そこにはやっぱり、リズムの学問(勉強)というものがあるのだが、考えずにたかたかやってみるのも、すごく楽しそう。酔ったみたいにすばやくたいたり、一方でマーチをやったり。声に近い楽器だと思う。声は、鼻声で即興をやったり、時には、友人がいきなり歌詞付きの曲を人前で歌ってくれちゃって、困ってしまうこともあるのだが(笑ー本人は見てないと祈りましょう)。

拍手とか、鼓とか、昔の人も今の人も、手を使ってリズムを取ったりするのは換わらないわけで、それを楽器として発展させたのが太鼓だとかドラムだとかコンガだとか、と思う。最近「太鼓の達人」の面白さを知って、結構得点も高かったので、僕も音ゲーというものに踏み込んでみるときが来たのだろう。

余談だが、わたくしは、かのフリーゲーム「うけたま〇」で、24700くらいとったことがある。かなり自信の有る得点だ。挑戦したい方は、ぜひやって見てくださいな♪ふふふ。

#### 記事の作成者

この記事は、管理人のOIDUSが作成しました。

このページへのリンクはフリーです。転載も許可しています。転載の際は内容を変えないようお願いいたします。また、このページを利用して何かおきても、作成者のOIDUSは一切、責を負いません。自己責任でご利用くださいネ！(なんと無責任な…)

この記事に関する質問、苦情、要求などがございましたら…

[oiduscom@yahoo.co.jp](mailto:oiduscom@yahoo.co.jp)

宛てにメールをお寄せください。